



地域おこし協力隊が 出会った素敵な人紹介

世界放浪絵描人
山口陽介さん 田代 潤さん
(虻5区)

洞 爺湖町に、世界を放浪しながら人々に感動や喜びを伝え歩く素敵な絵を描く画家がいます。

童心に帰り思わず一緒に探求したくなるような作品は、見た人に様々なきっかけや印象を与えてくれます。

よっちゃんの愛称で親しまれている山口陽介さんは、和歌山県の出身。「世界放浪絵描人」の「世界」とは「感覚や感性」のことを、「放浪」とは循環を指します。

移住のきっかけは、当時働いていたNPO法人の事務所



が洞爺湖に移転したことでした。洞爺湖にはとても大きな自然のエネルギーを感じたと語ります。

「毎日朝起きて、太陽を感じてご飯が食べられることは奇跡であり、なんて幸せなことだろう」と日々の暮らしの大切さを強く意識し始め「誰かの役に立ちたい、アートが持つ無限の可能性を伝えていきたい」と思うようになりました。

絵を描いて観てもらうだけが目的ではないと山口さんは言います。そこに何かを感じ

てもらうことで初めて、絵は完成します。

現在「感性を育てる学校」アートファーム」を主宰し、既成概念などない、自分だけの世界を表現する場を提供しています。

海外ではカンボジア・フィリピンなどで、孤児院や学校のこども達と一緒に絵を描き表現の自由や喜びを共有するなど、活動の輪を広げています。山口さんのあまたの活動を支えているのが、パートナーの田代潤さん。現在成香の佐々木ファームで働き、大地や

命と向き合っています。そして、山口さんの「心の支えになる」ことも大事な仕事になっています。

山口さんは、これからも田代さんと二人三脚で、「自分の絵を見て何かを感じた人が、自分の中の無限の可能性に気付いてもらえるような活動をしていきたい」と多くの人の喜びに繋がる活動にまい進しています。(宮本)

東奔西走

早春賦の歌詞ではありませんが、春とは名ばかりで、なかなか温かい日が続きません。しかし、月浦森林公園の草木の芽吹き、湖畔に咲くふきのとうの花などを見ると、確実に春は訪れているようです。

この先には、私の一番好きな初夏の洞爺湖が待っています。こんな洞爺湖の様々な顔を見てきた洞爺湖温泉は、発祥から100年の時間が経ちました。

町民上げて節目の年を盛り上げてきたいものです。(H.O)

今月のワンショット



硬さもとれて、先生と打ちとける虻田小学校の新1年生

人口と世帯の動き 3月31日現在(先月比)

男	4,287	(△22)
女	4,964	(△43)
計	9,251	(△65)
世帯	4,975	(△19)